

私たちは、地域住民の心と身体の健康をささえる病院として
「こころのふれあい」を大切に、安心と満足、信頼を得られる医療・保健・福祉を推進します。

八幡青樹会病院 季刊広報誌

平成21年4月15日 発行
発行責任者 広報委員会
地域連携室

青葉の風

第20号

連絡先 医療社会事業課 0748-33-7104

新しい年度が始まりました。就職や進学など変化の多い時期、誰もが何か新しい事を始めてみたいという気持ちにさせる季節ですね。春の暖かい風を感じつつ、なにか新しいことにチャレンジしてみようみませんか。本年度も宜しくおねがいたします。

平成21年度辞令交付式が行われました。 総務課長 藤井 勝



八幡・長浜青樹会病院では、この4月、看護師、作業療法士、精神保健福祉士などの専門職をはじめ、新しく27名の就職者を迎えました。4月1日には辞令交付式が行われ、さっそく新人研修に入り、研修後、八幡、長浜それぞれの部署に配属になります。病院現場で大切な事は、笑顔で患者様に接すること。「ほほえみかけるキミの勇気がエネルギー」をモットーにフレッシュな挨拶があちこちで聞かれると期待します。

恒例伊勢大神楽（獅子舞）が披露されました。 作業療法室より



八幡青樹会病院では、毎年2月から3月にかけて、病院の中央広場を舞台に獅子舞が披露されます。今年は、去る3月12日の午後、伊勢大神楽講社、山本源太夫ご一行を迎え獅子舞の舞台が披露されました。お囃子に合わせて獅子の舞う姿を見ていると、忘れ去ってしまったはるかな昔にタイムトリップしたようでした。軽業や皿回しに、はらはらどきどきし、舞のクライマックスになると見物の皆さんの大歓声で盛り上がりました。舞が終わると、皆さん順番に獅子に頭を噛んでもらっていました。

外来診療時間のお知らせ 外来診療は完全予約制です。事前にお電話でご確認ください。

- 初診受付：午前8時30分～午前10時30分
- 再来受付：午前8時30分～午前11時30分
- 診療日：月曜日～土曜日

（土曜日は平常どおり診療しております。）

- 休診：日曜 祝祭日年末年始（12/30～1/3）

夏季（8/15）創立記念日（7/16）

～ 受診の際は健康保険証をお忘れなく ～

国民健康保険証は4月から新しくなっています

	月	火	水	木	金	土
1 診	由利	山 柁	石 倉	由利	山 柁	山 柁
2 診	山 本	山 本	齋 藤	山 本	石 倉	石 倉
3 診	廣 田	水 元	廣 田	北 元	濱 名	廣 田
4 診	濱 名	—	西 田	—	—	濱 名
内 科	—		藤 本		—	—
循環器		—	—	—	—	芦 原

うつ病はだれでもかかる可能性のある病気です ～ うつ病の正しい知識と治療法 ～

うつ病は特別な人がかかる病気ではなく、誰でもかかる可能性があるところの病です。心身のエネルギーを低下させ、最悪の場合は自殺の恐れもできます。心配や過労・ストレスが続いたり、孤独や孤立感が強くなったり将来への希望が見出せないと感じた時などにうつ病にかかりやすいといわれています。

うつ病も早期発見、早期治療が大事です。当院では、うつ病に対する正しい理解をしていただくためのパンフレットを用意しております。また、うつ病をはじめ様々な心の病（精神疾患）に対する健康相談も受け付けております。



精神科デイケアは、こんな方が対象で、こんな活動をしています。



精神科に通院している患者さんのなかで、社会の一線で生活するにはまだ不安、自宅に居るだけでなく行く所が欲しい、家では寝てばかりいて困っている、人づきあいがうまくいかない等という方が、精神科デイケアを利用されています。精神科デイケアは集団活動を通して、生活のリズムをつけたり、人と交流するなど、それぞれの目標を担当スタッフと相談しながら利用を進めていく、こころのリハビリテーションです。グループ活動を通して基本的な生活習慣、精神的なゆとり、自信の回復を目的としている場所です。利用することで、さまざまな人と出会い、一緒にいろんな経験をしながら生活に楽しみを得ることができます。当院の精神科デイケアの定員は30名で、週4日間開所しております。詳しくはスタッフにお尋ねください。(写真は調理教室です。)

こころのエッセイ “今と昔 昔と今” 事務部次長 山城 雄三

地デジの準備は出来ましたか？のCMにつられ遂に我が家も地デジ対応テレビを購入した。画面は美しいし天気予報やニュースなどの情報も得られる。昔、電気製品の修理をしていた頃を思い浮かべると、その頃の製品は最低限必要な部品が配線しているだけで如何にも強固な作りで、修理も簡単だったし故障箇所もメーカーでほぼ決まっていた。今は高性能ゆえにプリント基板にびっしり部品が詰まっており、確かに性能も格段に上がったが故障頻度も増えたように思える。ユーザーも故障したらとことん修理をせずに安易に買い換える傾向が強いようだ。電化製品は生活に最低限必要な物だけの時代から、それが無くても暮らせる贅沢品があふれる時代となった。

これは生活スタイルの変化と言えさうであろうが、同時に生活に支障のない贅沢品に、私たちが使われ暮らしているスタイルではないだろうか。言い換えれば我々は虚空を見て暮らしているのではないかと思うときもある。「もったいない」と思う心を忘れてきていると思うのは私だけだろうか。

